

「2010 年度全国大会速報論文特集」にあたって

山田 誠二

(国立情報学研究所, 総合研究大学院大学, 東京工業大学)

本論文特集は, 2009 年度人工知能学会全国大会 JSAI2009 から始まった速報論文推薦の論文特集に引き続き, 第 2 回の全国大会速報論文特集である. ご存じのように, 2010 年 6 月 9 日～11 日に長崎で開催された 2010 年度人工知能学会全国大会 JSAI 2010 は過去最高の発表数, 参加者を集め大盛況であったが, そのことはまさしく人工知能学会全国大会が, 常に参加者のニーズを鋭敏に捉えながら, ささまざまな新しい試みを模索しつつ歩み続けていることの証しであると考えられる. 本論文特集の基となる, 全国大会の発表論文を速報論文として推薦する制度もそのような試みの一つである.

速報論文推薦の手続きを簡単に説明すると, まず発表者は発表申し込み時点で, 自身の発表論文の推薦を希望し, その推薦希望論文を対象にプログラム委員会を中心として推薦に値するか否かの評価を行う. その結果推薦された発表論文は, 全国大会後に速報論文のフォーマットで改めて速報論文特集へ投稿され, 査読が行われ採録決定となる. この手続きは, 基本的に初回の JSAI 2009 プログラム委員会でも慎重に検討され設計されたものであったが, 今回はさらに以下のような改善が行われている. これらの改善を検討する議論が JSAI 2010 プログラム委員会で活発に行われたことは, 人工知能学会の常に進化し続ける姿勢を示すものであった.

- 論文特集編集委員会の設置
- 通常速報論文と同様の査読プロセス
- 論文特集号として論文の一括掲載
- 推薦評者の匿名性向上

今回, 発表申し込み 410 数件中, 推薦希望が 40 件あまり, そして推薦評価を経て実際に推薦された論文は 11 編である. さらに, その推薦論文から査読を経て, 最終的に 8 編の論文が採録された. この数だけ見ても, かなりの競争率であることがわかるだろう. その結果, 下記にあるように偏りのないさまざまな研究分野から質の高い論文(筆者名略)が今回掲載の運びとなっている(人工知能学会論文誌, Vol. 26, No. 2 (2011) http://www.jstage.jst.go.jp/browse/tjsai/26/2/_contents/-char/ja/).

- 高速高精度ウェブ潜在関係検索エンジンの索引作成と関係表現手法
- テキスト分析による金融取引の実評価
- 共参照関係を用いた医学生物学文書中の事象抽出
- マルチエージェントモデルによる信号機オフセット制御法の提案
- 複利型強化学習
- 機械学習とユーザ知識を用いたイベント情報の構造化
- 強連結成分の性質を用いた OWCTY モデル検査アルゴリズムの高速化
- 高齢者音声韻律特徴を用いた HDS-R スコアとの相関分析—音声を用いた認知症の早期スクリーニングをめざして—

最後になるが, 本速報論文特集号は, 多くの方の協力のうえに成り立っている. JSAI2010 の中岩浩巳実行委員長, 間瀬健二プログラム副委員長, 山川 宏実行副委員長からなる幹部をはじめとし, 速報論文推薦担当 PC 委員の船越孝太郎氏((株)ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン), 土田正明氏の制度設計に対する多大なご尽力がなければ, 速報論文推薦制度の設計も査読も円滑には運ばなかった. ここに記して, 感謝いたします. また, 通常編集委員会から編集委員として参加いただいた高村大也氏, 佐久間淳氏, そして学会事務局の皆様にも感謝いたします. なお, 特集号編集委員会の構成メンバを以下に示す.

【2010 年度全国大会速報論文特集号 編集委員会】

編集委員長: 山田誠二(国立情報学研究所, 総合研究大学院大学, 東京工業大学)

副編集委員長: 間瀬健二(名古屋大学)

編集委員: 中岩浩巳(日本電信電話株式会社)

山川 宏((株)富士通研究所)

土田正明(情報通信研究機構)

古川忠延((株)富士通研究所)

高村大也(東京工業大学)

佐久間淳(筑波大学)